

降誕祭の夜のミサにワグナー君が参加した。ワグナーは盲導犬。彼のミサ参加はこれで三回目。祈りの雰囲気慣れていたので、満員の聖堂でも落ち着いていた。席は前から二番目の通路寄り。ご主人が立ったり座ったりするのに彼も合わせる。立つたびに「ブルブル」とする音が聞こえる。聖体拝領の時もちろんご主人に同行するが、拝領後は決まって祭壇の方に行くとする。侍者（奉仕者）でもしたいのだろうか▼教会には

だれでも招かれている。ミサも最初は信者のみに限られていたが、今では、だれでも参加することができる。降誕祭のミサはどこの教会でも信者でな



02.1.20

い方がたくさん見える。ちょうど三人の学者たちが星に導かれて飼う葉おけの幼子イエスのもとに來たのと似ている▼神の

子が贈られ、神と私たちの間にある壁を取り除かれた。神が人になり、人の間に住んでくださった。こうして教会は「バリアフリー」になった。「バリアフリー」とは「壁」がないこと。段差を取り除き、だれでも使えるトイレを作り、物理的にも真つすぐ主のもとに來れる教会、それが理想の教会だと思つ。神と人との間に壁がない教会は、人と人との間にも壁がない。見える壁だけでなく、見えない「心の壁」もある。これを取り除くと、

だれでも來られる本来の教会になれるのではないだろうか。差別と偏見のない社会。教会はそのモデルとなるように呼ばれている▼星に導かれた学者たちは、人の壁を乗り越えて幼子イエスを礼拝した。イエスの前には壁はない。だれでも彼のもとに來られるように。今、教会の上にも星が輝いている。教会を訪れる方が、そのまま真つすぐ主のもとに來られますように。ワグナー君もことしは星になりました。